

校長室より

「天空高き」



第127号



令和元年11月7日

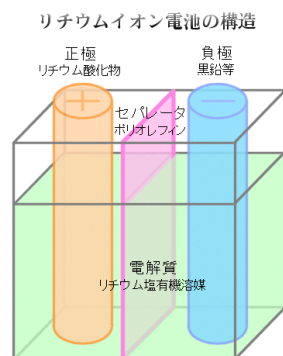
2019ノーベル化学賞—化石燃料からの脱却—

2019年のノーベル化学賞が発表されました。

旭化成名誉フェローの吉野彰氏がアメリカの Goodenough 氏、Whittingham 氏とともに、リチウムイオン電池に関する研究開発の功績が称えられ、受賞されました。

リチウムイオン電池は現在の携帯電話やノート型パソコンに用いられており、今後、電気自動車などの新規市場へのさらなる広がりが期待されています。また、リチウムイオン電池の一番の機能は電気を蓄えられることで、再生可能エネルギーの普及に貢献できます。それは環境問題に対して1つのソリューション（問題解決）を提供することにもつながり、地球温暖化にもストップをかける起爆剤にもなりえます。

昨年は、本庶佑京都大学特別教授がノーベル医学・生理学賞を受賞されました。日本人科学者が、人類に大いに貢献していることが何より素晴らしいことです。私たちにとって本当に名誉なこと、うれしい限りです。

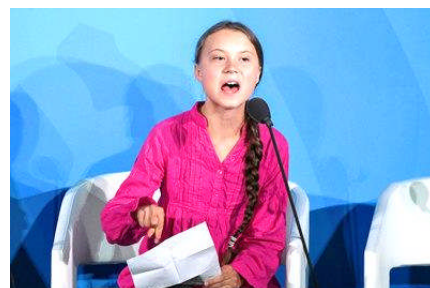


リチウムイオン電池は、化学的な反応（酸化・還元反応）を利用して直流の電力を生み出す電気装置。正極と負極の間でリチウムイオンが行き来し充電と放電が可能で、繰り返し使用することができるので、リチウムイオン二次電池とも呼ばれる

「裏切り、許さない」、怒りの演説—国連気候サミット開幕—

スウェーデンの高校生環境活動家グレタ・トゥンベリさん（16）は9月に、米ニューヨークで開かれる国連の気候変動サミットに出席するため、英プリマスから炭素排出量ゼロのヨットで出航しました。

ニューヨークの国連本部で9月23日、60以上の国の首脳らが気候変動対策の具体策を表明する「気候行動サミット」が、グテレス国連事務総長の主



失敗しないと見えてこないものもある

宰で開かれました。その席上でグreta・トゥンベリさんが若者を代表して世界に訴えました。

「未来の世代はあなたを見ている。私たちに裏切る道を選べば許さない」

学校を休んで地球温暖化対策を訴えたトゥンベリさんは「すべて間違っている。私はここにいないべきじゃない。学校にいないべきなのに」と強調。「私たちは絶滅の始まりにあるというのに、あなたが話すのはお金や永続的な経済成長のことばかり」と政治家や経済界に怒りをぶつけました。さらに「この状況を理解していて行動を怠り続けるなら、あなたは悪だ」と主張し、「あなたが望んでも嫌がっても、ここから、世界は目を覚まし、変化は訪れる」と主張しました。

「未来の世代はあなたを見ている。私たちに裏切る道を選べば許さない」非常に厳しい言葉です。しかし、現在急速な地球温暖化により、様々な問題が地球規模で発生しています。①異常気象（熱波、干ばつ、局地的豪雨等）②海面上昇③温度上昇による氷河消失、生態系への影響、農業生産減少等。

温室効果ガスの排出量がこのまま増え続ければ、地球の自然環境は大きく損なわれます。未来の人々への影響をできる限り抑えるためには、「今すぐ」温室効果ガスを減らす取り組みを始めることが必要なので、トゥンベリさんは、「私たちに裏切る道を選べば許さない」という非常に激しい言葉になったのでしょうか。

我が国では 2015 年に選挙年齢が 18 歳に引き下げられ、2022 年に成年年齢も 20 歳から 18 歳に引き下げられます。世界的にも、成年年齢を 18 歳とするのが主流です。

成年年齢を 18 歳に引き下げることは、18 歳、19 歳の若者の自己決定権を尊重するものであり、その積極的な社会参加を促すことにあります。

行動を起こさない限り私たちの住む世界は変わりません。一滴の水が大海を潤すように、私たち一人ひとりの見識と行動が求められています。

「良い習慣は・・・」—自転車の鍵掛け運動—

「良い習慣は才能を超える」。この言葉は、3 年前のある講演会で聞いた言葉です。

その言葉は、2004 年、イチロー選手がメジャーリーグシーズン最多安打記録を更新した後に、インタビューで語っていた言葉です。

「細かいことを積み重ねることでは、頂上には行けない。それ以外に方法はないということですね」

イチロー選手が継続して圧倒的な結果を出し続けるのは、間違いなくこの「細かいことを積み重ねる」という習慣化によるものです。



習慣化とは、自らに一定の規範(ルール)を課し、日々実践することです。習慣化する

ことによって自然に自分のリズムが生まれます。イチロー選手はこの自然のリズムをととても大事にして次々に偉大な記録を残してきました。

岩国警察署生活安全課と少年相談員連絡会主催の自転車の鍵掛け運動があり、本校では9月30日に担当者が来られ、自転車の鍵掛け状況の点検がありました。

点検結果は、高校で施錠率74.5%、付属中で92.3%でした。校内ですから安全なのではという心理が働いてこのような結果になったのかもしれませんが。しかし、鍵をかけていないが故の自転車盗難があります。自転車から離れる時は必ず鍵をかけるという習慣をしっかりと身に付け、自転車盗難防止の一翼を担ってください。

11月の月間目標

チャレンジ!

令和元年度
チャレンジ目標

- 1 挨拶 先に明るく元気に
- 2 先を見据えた行動 5分前行動
・登下校のマナーに心掛ける
- 3 整理整頓
- 4 1%を誰かのために

皆さんにいつも言っている言葉です。私だけでなく、これまでに何度も耳にしている言葉だと思います。

チャレンジすることが、皆さんにとってなぜ必要なのでしょう。

皆さんがいろんなことにチャレンジすることで、たとえ、うまくいかなくても、自分自身に次のような変化を見つけることができるからです。

視野が広がる、自信がつく、価値観が確立される、物事の見通しができる、たくましくなれる、などです。

できるか、できないかよりも、まずやってみる、チャレンジすることが、皆さんの可能性を広げる第一歩です。

よく学び、よく遊べ 一読書の秋・スポーツの秋

「よく学び、よく遊べ」という諺があります。このことわざは英語では、「All work and no play makes a Jack a dull boy.」です。直訳すれば、「勉強ばかりでまったく遊ばないと、ジャックをだめな少年にする」。すなわち、「勉強ばかりさせて遊ばせないと子供はだめになる」という意味になります。

この英文に出てくる Jack とは、昔からよくあった男の子の名前になります。日本語で「太郎」と同じであって、一般的な男の子を表現しています。

「良く学び、よく遊べ」。勉強するときはしっかり勉強し、遊ぶときはよく遊べ。

勉強だけずっとやっても、かえって効率が悪くなる時があります。遊びに転じた時には徹底的に遊ぶことによって、結果として勉強や仕事の意欲も湧いてきます。この「意欲が湧く」ということがとても重要です。

「人生 100 年時代」とも言われるように、10 年単位で日本人の平均寿命が延びて



います。これからの激動の時代を生き抜くためには、強靱な精神力と体力が必要です。そのためにも、私たちには「遊びの時間」が必要です。

若い皆さんは、若いうちから精神的なものも含め、いろいろな経験をし、鍛錬を積むことが大切です。海外旅行に行く、読書をする、映画を見る、美術館に行く。その時、いろんな人と話をしてみたり、時には恋愛したり。そうしたことを積み重ねることで、皆さんは100年時代を生きる強靱な精神力と体力と知力を身に付けることができます。

生き物を育てる 一豊かな心を

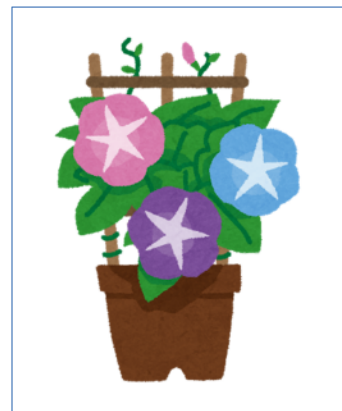
皆さんは今までに植物を育てたり、動物を飼ったことがありますか。

小学生の時に夏休みの自由研究課題で、アサガオ栽培をした人も多いと思います。また、犬や猫などの生き物を飼っている家庭も多いので、ほとんどの皆さんはその経験があると思います。

植物を育てるためには、まず、土壌づくりからスタートします。その後、水遣り、追肥、そして雑草、害虫駆除があります。生き物を飼う時は、それらの面倒を一生みるということになりますから、食事はもちろん、散歩や排泄の処理、しつけ、安全管理、病気の予防などが必要です。

このように、生き物を育てるということは、毎日の世話がとても大変です。手を抜くと、植物は枯れてしまいますし、ペットは死んでしまいます。しかし、手間暇をかけきれいな花を咲かせたときや日々のペットとの触れ合いは私たちの心を癒してくれます。和ませてくれます。

私たちは生き物を育てていく過程で、自然に慈しむ心や愛情が養われています。生き物を育てることで私たちはいろんな心を育ててもらっています。美しいものに感動する心、生きることの喜びと感謝の気持ち、明るく、前向きに、たくましく生きようとする心。この豊かな心は、自分を大事にすると同時に他人を思いやる心でもあります。そして、ルールやマナーを守り、社会に貢献しようとする実践的な力の基礎になります。その原点は生き物を育てることにあります。



24節気

立冬（りっとう）11月8日頃

立冬とは、冬の始まりのこと。「立」には新しい季節になるという意味があり、立春、立夏、立秋と並んで季節の大きな節目です。※これらを四立（しりゅう）といいます。朝夕冷えみ、日中の陽射しも弱まって来て、冬が近いことを感じさせる頃。木枯らし1号や初雪の便りも届き始めます。立冬を過ぎると、初霜が降りて冬の佇まいへと変わります。この日から立春の前日までが冬です。

小雪（しょうせつ、こゆきではありません）11月23日頃

北国から雪の便りが届く頃ですが、まだ本格的な冬の訪れではありません。雪といってもさほど多くないことから、小雪といわれたものだそうです。陽射しが弱くなり紅葉が始めるころで、銀杏や柑橘類は黄色く色づいてきます。次第に冷え込みが厳しくなってきますので、冬の備えは整えておきましょう。

日本の行事・暦